



鹿児島県立短期大学 振興会報 Vol.41
県短の“今”を伝える 『 KENTANING 』

学長
飯干 明

1953年 宮崎県出身。
2022年4月に鹿児島県立短期大学 学長に就任。
専門の分野は、体育学／スポーツ科学／健康科学／バイオメカニクス。



「オール県短」による「魅力ある県立短期大学づくり」

IIBOSHI AKIRA

インタビュー&メッセージ Report

県立短期大学は、1950年に鹿児島県立短期大学部として開学以来、地域に貢献する人材育成に取り組んできました。2009年度からは、鹿児島県が6年毎に策定している「鹿児島県教育振興基本計画」に記載された「魅力ある県立短期大学づくり」をもとに、グローバル化や情報化などの時代の要請に対応するとともに、地域社会に貢献できる人材育成を目指した教育内容の充実などによる魅力ある県立短期大学づくりの推進に努めています。

なかでもグローバル化については、令和5年度から文学科英語英文学専攻のカリキュラムを改訂しましたが、他学科の学生もグローバル化に対応できるように英語の自学自習ができる環境整備を検討しています。本学の教育や課外活動につきましても、学生の皆さんの自由な発想によるアイデアや意見を大事にしながら、振興会の皆様のご理解とご協力を得るとともに、同窓会と教職員も含めた「オール県短」による取り組みで充実させ、魅力ある県立短期大学づくりを推進して参ります。

「飯干学長はどんな学生でしたか？」
陸上をしながら高校教師を目指していたので、大学の授業も一番前の席で授業を受け、真面目な生徒だったと思います。
「高校教師を目指されていたのですね。きっかけは何でしたか？」
幼い頃の夢は野球選手でしたが、中学では球拾いばかりでつまらなくて諦めた笑。足が速かったので先生に誘われて陸上部に所属、走高跳で宮崎県一位になり、より真剣に。進学先の高校で陸上部の先生から熱心な指導を受け、高校の体育教師もいいなあと。ですが、教育実習で「このままじゃダメだ」と思い、大学院進学を決めました。

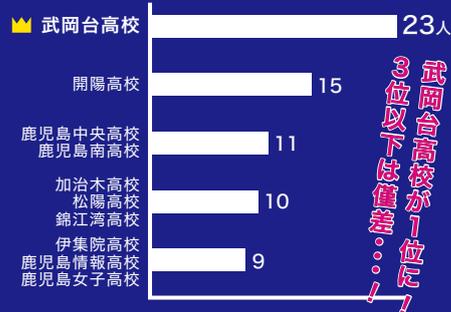
「大胆な思い切りと行動力が今の飯干学長へとつながっているのですね！これからの目標や夢を教えてください。」
「魅力ある県短づくりですね。県立短大応援プロジェクト」に寄せられた寄附金も活用しながら、学生や先生にとって魅力ある県短にしたいです。個人的な夢は、退職後に、色々な国に行くことです。多くのことを発見できるので、本当は大学時代に行きたかったけど…笑
「最後に、座右の銘を教えてください。」
恩師の「若者は日々進歩する」という言葉です。私は、進歩したいという気持ちがあればいつになっても、若者だと思っています。少しでも進歩しようという気持ちが大切ですね。

数字で見る県短 今の県短を知る5つのデータ

01 出身校

令和5年度の新入生は、全国101校の高校から県短に入学しました。出身校ランキングの結果はグラフの通りで、3位以下からは全て1人差でした。県外の高校だけでなく、県内の高校でも離島や指宿、鹿屋など、様々な地域から集まっており、101校中37校からは1人の学生のみが入学しています。

◎令和5年度 出身校ランキング



＼他にはこんな高校から／

奄美、飯野、池田、伊佐農林、出水、出水中央、指宿、指宿商業、岩川、白竹、頴娃、N、大分雄城台、大分東明、大口、大口明光、大島、沖永良部、鶴翔、鹿児島、育英館、玉龍、鹿児島工業、鹿児島工専、鹿児島実業、純心、鹿児島商業、鹿児島第一、鹿児島東、加治木工業、春日井東、加世田、金沢泉丘、鹿屋、鹿屋女子、鹿屋中央、神村、蒲生、川辺、喜界、九州国際大学付属、球磨工業、クラーク、江津、甲南、国分、国分中央、小倉南、古仁屋、小林、志布志、尚志館、樟南、杉並総合、青雲、聖心ウルスラ、川薩清修館、川内、川内商工、曾於、高鍋、種子島、種子島中央、妻、鶴丸、東稜、徳之島、鳥栖、中津南、野田女子、能登川、延岡、人吉、日向学院、ヒューマンカレッジ、吹上、福山、文徳、鳳凰、北稜、枕崎、南大隅、都城泉ヶ丘、都城東、都城西、宮崎第一、宮崎南、明桜館、屋久島、与論、れいめい

02 県内外出身割合

令和5年度の県内外出身者割合は右図の通り、県内出身者9割、県外出身者1割という結果でした。詳しい内訳は、『鹿児島226人、宮崎6人、熊本5人、大分4人、福岡・東京・石川・愛知1人』です。過去2年

間と比較してみると、入学者数は減少しているものの、県外出身者の入学者数は一番多い結果に。日本最南端の公立短大であっても認知度は高い県短!!

◎県内外出身割合



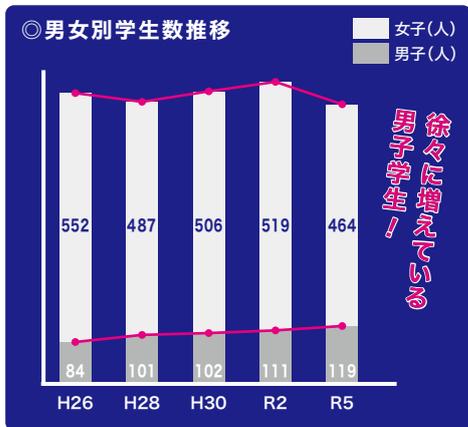
九州だけじゃない！
年々増える県外出身者

03

男女別 学生数推移

平成26年度から令和5年度までの男女別学生数推移をグラフにしました。平成26年度には全体の14%だった男子学生ですが、年々増えており、令和

3年からは全体の20%以上を男子学生が占めるようになりました。長年女子学生が多いイメージでしたが、年を追うごとに入学する男子学生も増えています。



生活科学科はほとんどが女子なので、男子学生が増えている実感はないですが、食堂とか結構見かけたりしてます!

生活科学科 食物栄養専攻1年

男子は女子に比べて少ないけど、だからこそ仲良くなるのは早いと思います。この前も同じ専攻の男友達とキャンに行きました!!



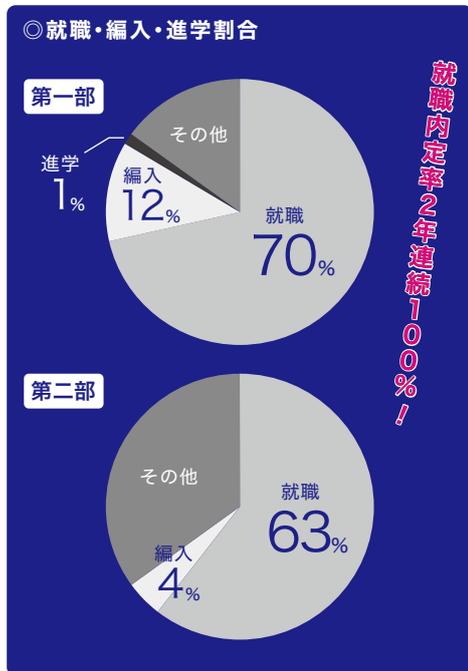
文学科 英語英文学専攻1年

04

就職・編入・ 進学割合

令和5年3月卒業者の就職内定率は一部二部どちらも100%でした。県内就職率は一部が88.4%、第二部が90.6%となり、第一部の県内就職率は

過去六年間と比べて一番多い結果になりました。最も県外就職者数が多かった学科は生活科学科で計9人(食栄5人、生活4人)でした。



05

卒業後進路

文学科は公務員就職と四年制大学への進学が多く、他学科に比べて企業等への就職は少なかったです。生活科学科は専攻の特色が現れており、食栄は栄養士、生活は建設系の就職が多く、商経学科は金融業・保険業への就職が多いです。第二部商経学科は編入・進学が少なく、企業等への就職が9割以上でした。

◎卒業後進路割合（令和5年3月卒業者）

● 日文

公務員・教員

企業等

編入・進学

公務員として就職する人と教員を目指して四年制大学等に進学する人の割合がほぼ同じ

● 英文

公務員・教員として就職する割合が一番多い！

● 食物栄養

半数以上が栄養士として活躍！！

● 生活科学

専門職に就く人が多い。建設系で公務員になっている人も

● 経済

銀行や保険会社などの金融業・保険業への就職者が多い

● 経営情報

事務や市の職員として公務員になる人が一番多い

● 第二部商経

企業等に就職する割合が一番高いが、業種は様々

Rethink PROJECT賞(最優秀賞)受賞! デザインで地元の魅力を再発見



県短生 ×

デザイナー

西村秋風 Aika Nishimura

生活科学科 生活科学専攻2年。

2004年生まれ。鹿児島県鹿児島市出身。

鹿児島県立南高等学校 情報処理科 卒業。

県短ではビジュアルデザインを中心に学んでおり、

将来は、枕崎市を盛り上げる活動がしたいと考えている。

「ビジュアルデザインを学び始めたきっかけは

元々写真を撮ったり見たり、イラストレーターの個展に行ったり；ビジュアル的なものを見るのが好きで、美術館やギャラリーに入り浸っていました。それがきっかけで、自分もやってみようと考えようになりました。入学前はファッションとビジュアルデザインどちらにも興味があったのですが、実際の企業や団体を巻き込んだ活動ができる、ビジュアルデザインを学ぼうと決めました。

「実際に学んでみてどうですか

自分の頭の中で考えたものを形にするイメージだったので、作品を見る人や使う人のことまで考えてデザインするというのは想像と違いました。アイデアが作品となる過程が一番楽しいです。

「作っていて一番大変だった作品、楽しかった作品はなんですか

苦労したのは「かごしまデザインアワード」に応募した作品です。コンピニコーヒーのカップデザインだったのですが、ただカップ

のデザインをするだけでなく、POPや企画書まで制作したので、苦労しました。一番楽しかったのは「Rethink Creative Contest」に応募した作品です。最優秀賞を取れたこともありましたが、自分の好きな枕崎市を題材にできたので、考えていて楽しかったです。

— 作品の内容は、どうやって決めましたか

コンテストの趣旨が地元PRだったので、最初は鹿児島市をテーマに考えていたのですが、良い案が思いつかず、曾祖母の家がある枕崎市をテーマにすることにしました。経節の匂いは「枕崎に来た！」って感じがするので、それを伝えられるような作品にしよう。ですが、ビジュアルで匂いは伝えられないので、表現方法にはかなり悩みました。匂いがあることをそのまま伝えるより、作品を見た人が経節の美味しい匂いを想像できるように「空気でごはんがすすむまち」というキャッチフレー

ズにしました。お米をかきこんだ後のお茶碗を再現するため、ご飯粒の量にもこだわりました。

— 最優秀賞受賞を知らされた時はどう思いましたか

正直信じられなかったです。私より家族の方が喜んでたぐらい。受賞がきっかけでより枕崎市を盛り上げたいと思うようになりました。

— 将来はどんなことをしたいですか

枕崎市にたくさんの人を呼び込める街にしたいです。枕崎には泊まる場所が少なく、来てもすぐ帰ってしまうから印象に残りにくいという課題があるので、古民家をはじめとした地域にあるものを活かした地域づくりを私も行なっていきたいです。デザインを学んでいく中で培った様々な視点から物事を見る視野の広さを活かして、枕崎市をもりあげていきたいです。



Rethink Creative Contest

株式会社クリエイターズマッチ主催、JT(日本たばこ産業株式会社)が協賛を務める、デザイン経験がなくてもチャレンジできる、アイデア重視のクリエイティブコンテスト。縁のある地域の「当たり前だと思っていたこと」「意外と知られていないこと」「ちょっと残念なこと」を今までにない切り口でアピールしたポスターを募集している。2023年には601点もの作品が応募された。

ラジオ番組「てげてげハウス」学生MC ラジオの力で鹿児島を元気に！

県短生 ×

ラジオMC

中間帆南 Honami Nakama

商経学科 経済専攻2年

2004年生まれ。鹿児島県鹿児島市出身。

鹿児島県立鹿児島南高等学校 普通科 卒業。

2023年からてげてげハイスクール→ハウスのラジオMCとして活動を始める。県短では、簿記を中心に学習している。



「ラジオMCのアルバイトを始めたきっかけは

高校で放送部として活動していたのがきっかけで、自分の声で活動をしたいと思うようになりました。たまたま聞いていたラジオでMCのアルバイトがあることを知り、四月からてげてげハウスのラジオMCをやらせていただいています。

「普段ラジオは聞きますか

霜降り明星のオールナイトニッポンが好きで聞いています！あとは車で流れていたら聞くくらいであまり：先輩のラジオは勉強も兼ねて聞くようにしています。お仕事内容教えてください

MBCアナウンサーの岩崎弘志さんと番組MCをメインでやっています。月に一回ある『ブックマーク』と『サークル紹介』という二つのコーナーは原稿作りもしています。ブックマークでは自分が好きなものやハマっていることなどを紹介していて、私は家でトマトを育てているので、家庭菜園について話したり、

好きなふりかけについて紹介しました。サークル紹介では県内の大学のサークルを紹介していて、今は県短のサークルを紹介しています。年数回しかないけどADの仕事もしていて、メールの印刷やX(旧Twitter)にリアルタイムで情報を流したりしています。

—MCをするときに気をつけていることはありますか

会話の延長線になるような自然な感じで話そう気をつけています。台本もないので、初めの頃は緊張して固くなっていましたが、一緒にMCをやってくくださるアナウンサーの方が、すぐに答えられる話の振り方や、さげない言葉遣いのフォローをしてくださっているので感謝しなさいです。

—原稿作りでも気をつけていることはありますか

初めて聞く人でも内容が入ってきやすいようにすることには気をつけています。特にサークル紹介では名前を聞いただけでは

活動内容が想像つかない場合もある。あと、出演してもらう方にも楽しんでもらえるような原稿を心がけています。構成や誤字脱字などの細かい部分はアナウンサーの方にもチェックをしてもらっています。サークル紹介ではインタビュをしてから原稿を作るのですが、何を一番伝えたいかを事前に決めていきます。サークルの活動内容だったり実績だったり…。一番伝えたいことがしっかりと伝えられるように、質問を15問くらい用意していきます。

—この仕事の楽しいところを教えてください

リスナーさんとのメールを通しての掛け合いだったり、普段関わることのない年齢層の方と関われるのが楽しいです。インタビュをする機会も増え、様々なことに興味を持つようにもなりました。すこしでも興味のある方は是非『てゲハイ』聞いてみてください！



てゲてゲハウス

毎週日曜 15:00-17:30にMBCラジオにて放送されているラジオ番組。オーディションから選ばれる学生MCと、MBCアナウンサーの岩崎弘志氏がパーソナリティを務めている。鹿児島県内の大学、短大に通う学生たちが生出演し、県内のサークル情報や流行りの話題などを紹介している。

昔の県短は〇〇だった？ OB・OGに聞く、県短の“今”

奥村さん
平成12年
日本語日本文学専攻 卒

西さん
平成16年
経営情報専攻 卒

若松さん
平成15年
第二部商経学科 卒

富森さん
平成5年
第二部商経学科 卒

小濱さん
平成6年
第二部商経学科 卒



中西先生
平成2年
食物栄養専攻 卒

木元さん
昭和57年
第二部商経学科 卒

上笹貫先生
平成28年
生活科学専攻 卒

有村先生
昭和62年
食物栄養専攻 卒



1950年の開学から長い歴史を持つ鹿児島県立短期大学。卒業生でありながら県短の教職員として働く、9人のOB・OGに、卒業生だからこそのわかる、県短の“今”について、お話を伺いました！

「今と昔の県短の違いは？」

奥村 男子が増えたなあと思います。私の頃は学年に一人だけしかいなかったたので、モテてましたよ（笑）

西 私 の頃も学年に一人しかいませんでしたが、男子学生が増えたなあって。男女仲も良くて中にはカップルもいるとか…

若松 二部は男女同じくらいいましたね。同期で結婚したりとか。

木元 一部と二部生のカップルが多かったです。実は家内も県短で：一同 おお〜！

木元 自治会で出会ったんですけど、家内が一部で私が二部でした。上笹貫先生の奥様も県短生でしたよね。

上笹貫 そうですね：僕も自治会に所属して、元々知り合いではあったんですけど。

有村 県短男子二人とも…（笑）

奥村 県短に来るとモテるのかもしれないですね。

木元 二部の学生は働きながら通っていたりするので、大人に見えていたのかもしいないです。

昔の学校行事はどうでしたか？

有村 昔は文化祭前にハッピを着

て、お神輿を担いでパレードをしていました。

木元 当時は自治会費のみでやりくりしてたから、全部手作りです。やってましたね。

有村 文化祭は各専攻で屋台を出してました。それに、地域の方や子どもなどいろんな人が来てましたよ。

奥村 私の時もでした。もう歩けないくらい人、人：って感じで。

西 そうですね。昔は学生たちが舞台を作って、外でお笑いライブとか発表をしてました。学生が作り上げる雰囲気を感じたのを今でも覚えてます。

！今以上に学生同士の繋がりが濃かったんですね。

木元 昔は男子寮があったのもありますね。昭和天皇が崩御され、世間が自粛ムードになった時があったんですけど、当時の自治会長が「学生時代の大事なシーンだから」とパレードも文化祭も開催したと聞きました。

奥村 学校行事は全力で楽しんだ方がいいよ！私は行事に参加しないでバイトばかりしてたから、「なんか損したな」ってすこ

く後悔しています。

西 今は他の学科・専攻の学生との接点が少ないんですね？みんなが気軽に集まれる場所ができたらいいなあ。

奥村 あと、私の頃はゼミで旅行してました。他のゼミの旅行が楽しそうだったので行って行っちゃいました。

！それってアリだったんですか？！

奥村 なんか大丈夫でした（笑）京都で桜を見たんですけど、先生に「あなた、一生分の桜を見ましたね」って言われて、今でも桜を見るたびに思い出します。

！県短の先生になっただきっかけは？

上笹貴 卒業してからデザイナーやディレクターとして仕事していたんですけど、後輩に色々教えているうちに「教える仕事がいい」と思って県短に来ました。

中西 私は県職員として働いていた時に声をかけていただきました。

有村 元々県短の先生になりたくて、先生に「助手にしてください！」と頼むほどでした。当時は断られてしまいましたが、募集が出るたびに挑戦してやっと先生になれました。他の学校から

お誘いもあつたんですけど、やっぱり県短が好きで離れられないです。**！県短を卒業して良かったことはありますか？**

小濱 今みたいに、県短卒の先輩方に会えたことです。

木元 県短には元氣のある人や自分を持つてる人がたくさんいて刺激をもらえたことです。

西 私は就職難な時代に学生だったので、学生課の方にたくさんお世話になりました。これは職員と学生の距離が近いからこそできたことだと思うので、県短に来て良かったと思います。

！最後に、これを読んでいる方にメッセージをお願いします！

富森 短大生活、悩むこともたくさんあると思いますが、頑張ってください。

木元 大規模な学校にはない距離感が、今も昔も変わらない県短の魅力の一つです。学校生活や就活、身の回りのことまで気軽に相談してください！

！今回の座談会を通して、教職員の方をより身近に感じる事ができました。OB・OGのみなさん、ご協力ありがとうございました！

会長挨拶



会長
(鹿児島県議会議長)
松里保廣

日頃より鹿児島県立短期大学振興会の活動にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。振興会長を務めております松里 保廣(まつざと やすひろ)です。謹んでご挨拶申し上げます。

近年、短期大学を取り巻く環境は厳しくなっていますが、高等教育の機会を確保することは重要な役割と考えます。県短は、一人ひとりに対するきめ細かな教育を通して、専門性を備えた人材、社会で活躍できる人材の育成に努めておられ、今後もこのような形で地域の発展に貢献されることを期待します。

また県短は、地域と連携・協力し、さまざまな学びの場を提供することにも努めておられます。今後とも、公開講座や金曜講演会などの取組が継続され、県民に身近な短期大学として信頼され親しまれていくことを願っています。

振興会としても、県短が引き続き優秀な人材育成を通じた地域の活性化に貢献されることを期待し、学生がより充実した生活を送れるようサポートしていきたく考えています。これからも、会員の皆様にはより一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

振興会とは

鹿児島県立短期大学における教育の振興を援助し、地域社会の向上発展に寄与することを目的とし、学生生活がより充実したものになるよう積極的に支援・協力を行う在学生のための後援組織です。会員は学生の父母等であり、その会費を財源としながら、図書館の雑誌・新聞等の購入、資格取得助成をはじめとした就職活動への援助、課外活動や食堂・生協などの福利厚生施設に助成を行うなどの各種事業を行い、その成果が全ての在學生に還元されるよう努めています。



鹿児島県立短期大学振興会報「KENTANING」は、ホームページでも閲覧可能です。

●URL

<https://www.k-kentan.ac.jp>

●発行
鹿児島県立短期大学振興会
〒890-0005
鹿児島県鹿児島市下伊敷
1丁目52番1号
●電話
099-220-1111
●FAX
099-803-4473
●デザイン、取材、編集
生活科学科生活科学専攻
ビジュアルデザイン研究室
國武ひわ、西村秋風

クレジット